

# マラヤ大学オンライン研修 研修報告書（2021年春）

---

SOSHIP (SOCIAL SCIENCES AND HUMANITIES  
IMMERSION PROGRAMME) COURSES

KIKUCHI, KOTA

FUJIWARA, YUI

## 目次

1 プログラムの概要 .....	1
1) プログラムスケジュール .....	1
2) 授業科目 .....	1
3) Activities with I-Smart Buddies or Tutorial Sessions .....	3
4) 時間割や予定の変更について .....	4
2 プログラムのハイライト .....	5
3 研修体験・成果 .....	6

## 1 プログラムの概要

### 1) プログラムスケジュール

このプログラムはマレーシアのマラヤ大学が主催するプログラムの一つであり、社会科学系の授業を英語で受講する。2021年春のプログラムは、2月15日から3月5日まで開催され、授業は一日2コマずつ、平日の10:00-12:00, 12:30-14:30(日本時間)に行われた。マラヤ大学で社会科学系の専攻の学生6人と、東北大学、福井大学、岡山大学の学生6人が参加し、日本人学生一人につき現地のバディが一人対応してくれた。

プログラムが始まる前、2月12日にオープニングセレモニーが開かれ、マラヤ大学の先生の紹介、学生の自己紹介などが行われた。授業の最終日である、第三週の金曜日の16時からはエンディングセレモニーが行われた。


### 2) 授業科目

**SOCIAL SCIENCES AND HUMANITIES IMMERSION PROGRAMME (VIRTUAL VERSION)**

Time \ Day	09.00 – 10.00	10.00 -11.00	11.00 – 11.30	11.30 – 12.30	12.30 – 13.30	13.30 – 14.30	14.30 – 15.30	15.30 – 16.30	16.30 – 17.30
Monday	Seminar Series		Break	The History of Malaysia		Break	Activities with i-Smart Buddies or Tutorial Sessions		
Tuesday	Media and Society			Southeast Asian Studies					
Wednesday	Strategic Communication			The History of Malaysia					
Thursday	Southeast Asian Studies			Media and Society					
Friday	Strategic Communication			Seminar Series					
Saturday									
Sunday									

#### Notes:

Indicated time in this schedule is with reference to Malaysia Standard Time (MST)

 The plenary courses that all students need to attend.

マラヤ大学に申請フォームを送るときに、必修の Seminar Series の他に、5つの内2つの科目を、時間割が被らないように注意して選択する必要があった。必ずしも希望が通るわけではなく、受講希望者が多かった講義が開講されたようであった。実際の時間割は上の表のとおりである。

Seminar Series と The History of Malaysia の授業が必修で、日本人6人とマレーシアのバディ6人の計12人で受講した。Media and Society と Southeast Asian Studies はどちらか一方を受講した。僕たちとバディの4人は、Southeast Asian Studies の授業を受けた。以下では個別の科目について紹介する。

## **Seminar Series**

この授業は、毎回異なる講師の先生による様々なトピックについて講義だった。成績評価のためのテストやレポートはなかった。

### **第一回：The New Adventurous of Higher Education Learning**

**By: Mr Shaiful Rizal Hassan**

マラヤ大学についての紹介や、コロナ禍における大学教育についての講義であった。コロナの影響で授業などが、どのように変化したかを話す機会があった。

### **第二回：The War inside Us**

**By: Ms. Aina' Mardhiyyah Mohd Nor**

メンタルコントロールの方法を学んだ。いくつかのメンタルトレーニングを実際に行った。

### **第三回：Gender and Human Rights: The Endless Fight of the World**

**By: Ms Nurul Nabilah Ahmad Hijazu**

講義を受けた後、人権について世界人権宣言に基づくケーススタディを行った。ケーススタディは、バディとペアになって事例を読み、全体に向けて事例の概要と、どのような権利を侵害していたかについて説明する方式であった。

### **第四回：Perspective on E-Tourism**

**By: Ms. Siti Nurbaini Mat Zin**

インターネットを活用した新しいツーリズムの形態についての講義であった。自分が行ったことのある国や、そこで気付いたことについて話す機会があった。

### **第五回：Asian Masculinity: Gender as Performativity**

**By: Mr Ahmed Hilmi Mohamed Noor**

男性らしさとはなにか、その条件や変遷についての講義であった。質問された時、質問に対する正しい答えではなく、わざと間違えて答えないと授業が進まなかった。

### **第六回：Multiculturalism: Malaysia in Practice**

**By: Mr. Muhammad Aiman Syafiq Sabri**

マレーシアの多民族文化とマレー系、中国系、インド系のそれぞれの民族の慣習についての講義であった。挨拶、食事、結婚式の様子などについて学んだ。

## The History of Malaysia

この授業では、タイトルの通り、マレーシアの歴史について学ぶ授業であった。先生が説明して、最後に質問がないか確認するスタイルで授業が進められた。ゆっくり話してとお願いしなければ、かなり早いペースで授業が進んだ。休憩は無く、2時間ぶっ続けであった。第六回目の授業の後半では、試験があった。テスト前日までに、テスト範囲のスライド（第五回目まで）が Google ドライブにアップロードされた。試験は一問一答形式の問題が 25 問出題され、時間内に、問題が記載された word ファイルに答えを書き込んで提出するという方式であった。テスト範囲が広く、また、試験時間が短かったため大変だった。

## Introduction to Southeast Asian Studies

この授業では、東南アジアの宗教、食、民族、政治などについて学んだ。講義中に先生から質問をされることが多かった（東南アジアにきたことある？、日本の民族の数は？、日本の政治は？など）。先生がゆっくり、はっきりと話してくれたため、授業は聞き取りやすかった。授業の最後に、授業テーマに関する YouTube を視聴することが多かった。授業の中ほどで、5~10 分程度の休憩があった。成績評価は中間レポート 50%、期末レポート 50% であった。レポートの提出期限は、出題から一週間であった。

## Strategic Communication

Strategic communication の定義や歴史、聴衆や説得に関する理論、組織の危機管理等について学んだ。授業の前には、先生に指名された人が面白い雑学を紹介する時間があり、指名されてもいいように事前に話す内容を調べて決めておいた。授業の課題は、Integrated Marketing Communication (IMC) について、好きな組織や企業を選択し、IMC をどのように活用しているのかのプレゼンテーションとレポート、300words 程度のショートエッセイ 2 題、選択形式のクイズが 2 回が課された。エッセイやクイズは授業で扱われたものばかりで、授業を理解していればそこまで苦労しない難易度であった。最終テストは 20 問の選択問題と、3 題の記述問題でこれは授業時間内に解く必要があった。評価はプレゼンテーション 10%、レポート 10%、ショートエッセイ 10(5×2)%、クイズ 20(10×2)%、最終テスト (20 問選択問題) 20%、最終テスト (記述問題) 30% であった。

### 3) Activities with I-Smart Buddies or Tutorial Sessions

時間割では放課後は毎日アクティビティがあるような書き方をされているが、実際にアクティビティがあったのは火曜日と木曜日だけで、他の予定があればそちらを優先して良いことになっていた。時間は日本時間で 16 時~18 時頃であった。マレーシアの文化や観光地を紹介してくれたり、一緒に映画を見たりして楽しんだ。アクティビティのうち最後の一回は、日本人学生に何をするかが委ねられた。6人で分担し、おにぎりや手巻きずしを作る過程を実演したり、浴衣を着たりするなどして、日本文化を紹介した。

#### 4) 時間割や予定の変更について

事前に公表されていた予定が直前に変更されたことがあった。例えば、オープニングセレモニーの日時が直前に変更されたため、参加することができなかった（菊地）。申請時は知らなかったが、時間割が発表されると必修の科目が1つ増えていた。また、講義の曜日や時間帯も、フォームを送ったときから少し変わっていた。また、第三週の金曜日の16時からエンディングセレモニーが行われたのだが、セレモニーの日時が分かったのは当日の朝であった。実際に渡航していれば、マレーシアにいる間は完全にそのプログラムに割くことができるので、多少の時間変更に対応できると思う。しかし、オンラインの場合、アルバイトや研究室などの予定もあるうえで、研修に参加するため、急な時間変更には戸惑いを感じた。日本人にとっては予定通りにイベントが実施されない部分があり、ルーズに感じた。

## 2 プログラムのハイライト

### Seminar Series について（農学部 3年 菊地孝太）

Seminar Series では、様々なトピックについて話を聞くことが出来た。特に印象に残っているのは第二回目の The War inside Us と、第五回目の Asian Masculinity: Gender as Performativity である。第二回目の講義では、メンタルトレーニングを行った。具体的には、腹式呼吸の練習をしたり、その日にあった良いことを書き出したりした。授業っぽくなくて楽しかった。第五回目の講義では、「男らしさ」について学んだ。先生の考えでは、「男らしさ」には 4 つのレベルがあって、アジア人は頑張っても一番上のレベルにはなれないらしい。

### 目のケアの必要性（農学部 3年 菊地孝太）

どの講義も Zoom や Google Meet を使用してのリアルタイム方式であった。講義によっては、2時間ぶっ続けであった。日本語での授業と違い、聞き流してしまうと分からなくなってしまうため、ずっと集中している必要があった。また、耳だけでは授業についていくのが難しいため、スライドも集中して見ていた。その結果、目の疲労に悩まされた。途中で、ブルーライトカットメガネと、パソコン用のブルーライトカットフィルムを購入した。ホットアイマスクも準備した。

### レポート課題について（経済学部 2年 藤原由唯）

Introduction to Southeast Asian Studies では、評価がレポートによって行われ、プログラム中に最も苦戦したものの一つであった。3週間のうちに課されたレポートは5つで、中間課題では 750words が 2 題と 1000words が 1 題、最終課題はバディとのペアワークで 1000words が 2 題であった。（本当は 1200words であったがバディが交渉して、文字数を減らしてもらえた。）ここまで長いレポートを英語で書くのは初めてであった。中間課題は一人で書かなければならず、授業後の時間をほとんどレポートの作成に充てた。参考となる資料や記事をインターネットで探したが、日本のサイトとは異なり、今見ているサイトが信頼できるのかが判断つかず、また引用や参考文献としての扱いも適切に行うことができず、反省が多く残った。しかしながら書き上げた達成感はいへん大きなものであった。最終課題はペアワークだったため、オンラインでバディと共有しながら同時作業でレポートを完成させた。バディも英語は第一言語ではなく、英語でレポートを書くのは大変だと言っていたが、それを全く感じさせないスピードで書き進めていた。この授業の課題をやりきったことは、自信につながり今後も学習を進めていく糧となったように感じる。

### 3 研修体験・成果

#### 英語で授業を受ける

農学部 3 年 菊地孝太

春休み、旅行やバイトなどの活動が制限される中で、何か有意義なことが出来ないかと思っていた。そんな中で、SoSHIP プログラムの募集を見た。授業科目自体は、僕の専門とは全く関係ないが、英語で授業を受ける機会が欲しいと思い、このプログラムに申し込むことを決めた。プログラムの成果や感じたことを以下に記す。

The History of Malaysia と Introduction to Southeast Studies の講義では、マレーシアをはじめとした東南アジアの地域について学んだ。言葉と授業スライドだけでは理解が難しいときは、Google Meet の字幕機能を使用したり、チャットでバディに質問したりした。授業や復習の際には、高校の世界史の資料集が役に立った。英語の聞き取りのため、とても集中して授業を受けたことで、学習した内容がより定着したと感じている。一方、英語で 1000 字程度のレポートを書くのには、とても苦勞した。指定の字数を超えることを意識するあまり、レポートの内容には課題が残った。

Strategic communication の講義では、好きな企業や組織を選択して、IMC をどのように活用しているかをプレゼンする機会があった。英語で 8~10 分程度プレゼンする機会が初めてであったため、大変に感じた。岡山大学の学生のプレゼンテーションが上手であったため、見習いたいと思った。また、授業中いきなり、「自分の専門分野の用語について説明して」と言われたことがあった。専門用語を英語で、誰にでも分かりやすく説明することは、とても難しいと感じた。今後、同じ質問をされたら答えられるように、専門科目と英語の勉強を頑張りたい。

マラヤ大学の学生には、とてもお世話になった。授業の手助けの他にも、放課後にアクティビティを企画してくれたり、週末に相談の時間を設けてくれたりした。自分が逆の立場であつたら、これほどの時間は割けなかつただろうと思うため、とても感謝している。

3 週間の研修を通して、英語運用能力が劇的に向上したわけではない。リスニング能力が少し向上したと感じる程度だ。しかし、日頃から英語に触れようという意識は高まった。TOEIC や TOEFL 対策参考書の勉強だけでなく、英語のラジオを聴いたり、各国の観光地紹介動画を視聴したりするようになった（海外旅行したい気持ちが高まり、モチベーション維持に良いと思う）。これからも、自分自身を高めていけるよう頑張りたい。



## 英語を学習の手段へ

経済学部 2 年 藤原由唯

英語は大学に入学してからも依然として学習の対象であった。英語を学習の手段へ転換するきっかけとなることを期待して、このプログラムへの参加を決意した。プログラム中の苦労や反省、3 週間の成果や感じたことを以下に記していく。

まず、一番最初に苦労したのは英語の聞き取りであった。一度聞いただけでは理解できない部分が多かった。そのため授業中には隣にスマートフォンを置いて録音し、復習や課題をする際には、複数回聞き直した。それでも聞き取れず、しかし重要そうな部分は、授業後バディに発音の雰囲気伝えて、何を言っていたのか教えてもらった。文字に起こしてもらくと、基本的な簡単な単語だったこともあった(truely がどうしても聞き取れなかった)。話される全ての言葉に集中するため、授業後には毎回どっと疲れを感じた。授業を重ねても、劇的なリスニング能力の向上は正直認められなかったが、英語を長時間聞き続ける耐性は確実に高まった。

英語を学ぶ手段に転換したいというのが参加目的であったが、このプログラムは確かにそのきっかけとしての役割を果たしてくれたと感じている。東南アジアについての授業とマレーシアの歴史についての授業の組み合わせにより、東南アジア地域についての知識をより深めることができた。英語で授業を受けると、意味は分かっても日本語では何というのか分からない用語もあって、それは今までの私にはなかった学び方で新鮮であった。

また、マラヤ大学のバディには心から感謝している。ラインで連絡を取っていたのだが、頻繁に困ったことはないかと連絡をくれ、授業で分からなかったことは丁寧に説明し直してくれた。放課後のアクティビティでは、カメラ越しに伝統衣装や食べ物を紹介してくれた。工夫して何とか伝えようとしてくれていたことが感じられて、本当に嬉しく心が温まった。いつか再開を果たせる日が来るのが楽しみである。

様々なことが制限されている昨今の状況下では、平等に与えられた時間をいかに有効に使えるかが問われているのではないだろうか。海外に渡航することは叶わなかったが、オンラインだからこそ、3 週間という時間を確保することができた。今後も、機会を逃すことなく、自分自身を成長させていきたい。